

パパ一年生

第1期OB 勝木 啓太

「かわいいねー。何ヶ月ですか？」最近子供をベビーカーに乗せてエレベーターに乗ると必ずと言っていいほど、知らないおばちゃんに話しかけられる。「〇ヶ月です。」と答えると、「あら、今が一番いい時期ね」と。思い出せば、結婚したての頃や大きなおなかの奥さんと歩いている頃もそう言われました。おばちゃん達曰く、ここ最近ずっと私は一番いい時期を生きているそうです。

しかし、実際の生活は夜泣きで何度も起こされて、眠いまま会社に行っていますし、部屋を片付けているソバから引き出しを開けて、中身をばら撒いたり、ゴミ箱をあさったりと部屋の中はぐちゃぐちゃです。

生まれた頃は、寝たまま身動きが取れなかった子が、寝返り、ハイハイと段々と動くようになりました。つかまり立ちしかできなかったのに、1週間後にはあちこちへどンドン歩いていたりと急激に成長していきます。

また、子供がいることによりできないことが増えました。例えば、外出に行ける店は急に減りましたし、旅行もなかなか労力が要ります。さらには育児に疲れた奥さんのイライラをぶつけられるというリスクまで出てきました。テーブルの上にあったマグカップに手を伸ばして、中身を部屋じゅうに巻き散らかされたりという彼女の言い分もありますが。

ただ、子供が生まれてから自分たちも周囲にも変化が出てきているのを実感します。例えば前述のような知らない人に話しかけられることは子供がいないとなかなかないもの。今まで接点のなかったような人とつながりができたり、家族がよく喜んでくれたりと楽しみは増えました。

子育てをしていると「子供がいるからこれができない」とか、「子供にこうなってほしい」とかだんだんと視野が狭くなってしまいがちです。しかしながら、世の中絶対がなく、時代や家族によって考え方は色々で、どう育てるかは自分の考え次第だなと感じています。例えば、国が推奨する育て方は、離乳食のやり方にしても3年ぐらいでぜんぜん違う内容になっていたりします。

自分自身への自戒もこめて、周りに流されず今が一番いい時期にできるようにしていきたいなど考える今日この頃です。



愛娘（1歳）